

平成19(2007)年度男女共同参画施策の進捗状況

男女が性別にかかわらずその個性と能力を十分に発揮し、生き生きと生活することができる男女共同参画社会の実現は、21世紀の我が国の最重要課題となっています。

三原市では、男女共同参画社会の実現を総合的かつ計画的に推進するために、男女の人権が尊重されることを基本として「三原市男女共同参画プラン」[計画期間] 平成19年度～平成23年度を策定し推進しているところです。

今回の情報誌では、市民の皆さんに三原市男女共同参画プランの数値目標の進捗状況を公表します。

①男女共同参画を進めるための人づくり

指 標	現状値(H18)	(H19)	目標値(H23)
政策・方針決定過程への女性の参画促進	男女共同参画セミナーの開催 3回	3回	5回
	各種審議会における女性委員の割合 21.7%	19.9%	30.0%
広報・啓発の充実	情報誌「with You」の発行 5,000部	5,000部	45,000部

②男女共同参画を実現するための環境づくり

指 標	現状値(H18)	(H19)	目標値(H23)
職場における男女共同参画の推進	農林漁業、商工業などの自営業における就労環境改善に向けての研修会・講習会の開催 2回	0回	12回
	家族経営協定に関する研修会・講習会の開催 0回	0回	6回
	経営に関する研修会・講習会等の開催 5回	12回	12回
家庭における男女共同参画の推進	ドキドキ子育て講座 3講座×2回	3講座×3回	3講座×3回
	乳児保育事業 1箇所	2箇所	2箇所 ※
	延長保育事業 9箇所	10箇所	12箇所 ※
	夜間保育事業 0箇所	0箇所	1箇所 ※
	休日保育事業 0箇所	1箇所	1箇所 ※
	乳幼児健康支援一時預かり事業(病後児保育施設型) 0箇所	1箇所	1箇所 ※
	家庭的保育事業 0箇所	0箇所	1箇所 ※
短期預かり支援事業 0箇所	0箇所	1箇所 ※	
地域における男女共同参画の推進	三原市まちづくり支援事業 71団体	92団体	100団体 ※

③男女共同参画を支える社会づくり

指 標	現状値(H18)	(H19)	目標値(H23)
高齢者等が安心して暮らせる環境づくり	障害者への相談支援事業 10件	18件	38件
	障害者の福祉施設から一般就労への移行 8人	11人	10人
子どもがのびのび育つ環境づくり	地域子育て支援センターの設置 5箇所	5箇所	7箇所 ※
	つどいの広場の設置 0箇所	1箇所	1箇所 ※
	子育て支援総合コーディネーターの配置 なし	なし	実施 ※
	ファミリーサポートセンターの設置 0箇所	1箇所	1箇所 ※

※H21年度目標値

このプランの実行にあたっては、市民・事業者・地域団体・行政が一体となった取り組みと連携が必要です。今後も一層のご理解とご協力をお願いします。

みはらウィメンズネットワーク

平成20年度みはらウィメンズネットワーク総会が、6月7日三原市市民福祉会館において開催されました。

みはらウィメンズネットワークは、男女共同参画社会の実現にむけての活動を推進することを目的として平成13年三原地域の団体と個人で結成されました。

本年度の活動として、

1. 日本女性会議in富山への参加研修
2. みはらウィメンズネットワーク・NPO法人キャリアネット広島との主催による「育ち合うコミュニケーション講座」の開催
3. 三原市男女共同参画条例に向けての研修、等が決まりました。

みはらウィメンズネットワークへ加入ご希望の方は、
三原市教育委員会 青少年女性課 (TEL 0848-64-9234)
へお問い合わせください。



三原市男女共同参画講演会 開催

平成20年6月7日(土)三原市市民福祉会館において三原市男女共同参画講演会が開催されました。

「第二の人生を楽しむ」

～新たな自分さがし～

と題して広島県再チャレンジ学習支援協議会事務局長の東 由水枝さんと、家庭の主夫 東 照三さんご夫妻による講演がありました。

結婚後十数年間、照三さんは、仕事と家庭をそれぞれが分担することにより幸せな家庭を創ろうと思い、仕事一筋の会社人間でした。由水枝さんは専業主婦になりましたが、自分らしく生きることができませんでした。

その後照三さんは、ニュージーランドへ転勤し外国での二人の新たな日々がはじまりました。そこで出会った人々が仕事と個人の生活を両立させ自分らしく生きていることを知り、夫婦や家族のあり方を問い直すきっかけになりました。

帰国して、結婚二十年目にして子どもに恵まれ、器用な夫の照三さんは出産準備に赤ちゃんのおむつを縫われました。また夜中の授乳も「大丈夫か」と声をかけられたそうです。その後も相変わらず海外出張の多かった照三さんは、絵葉書を送り由水枝さんの育児を応援されました。

子どもが小学生になった時、由水枝さんは、自分らしく生きる行動として大学へ入学され、卒業後は大学の副手として就職して、経済的自立を果

たされました。働くことで夫の仕事への理解がより深まったと話されました。さらに、夫69歳、妻60歳で大学院へ進学し支え合い助け合って学ばれました。

自分らしく生きるということは決してわがままに生きるのではなく、お互いに響きあって認め合っていること。

「響生=共生」

という言葉を示してくださいました。

夫婦、親子、あなたとわたしという関係を理解し合うには、努力と思いやりが必要であると改めて認識しました。そして女と男が人として自分らしく生きることができる社会も、たおやかな感性をもち、たゆまない努力が大切であると気づかれた有意義な講演会でした。

